

令和3年度

恵那北小学校だより

2月20日号

げんきたっ子



百里の道は九十九里を半ばとす

伊地知みゆき

中国の戦国時代の逸話をまとめた古書「戦国策—秦策」に「百里を行く者は九十里を半ばとす」という言葉があります。佐藤一斉は「百里の道を行く者は、九十九里をもって全行程の半ばとす」と言っています。百里の半分を五十里と考えず、九十九里行ってやっと半分済んだと考えなさいという教えです。



リモート全校集会にて
画面向こうの司会者に積極的に挙手アピール

年度末になり、子どもたちはそれぞれの学年のまとめの学習に入っています。この1年の子どもたちの心身の成長は目を見張るものがあります。高学年の子どもたちと登下校時に並んで歩いていると視線の高さがほぼ同じになり、言葉遣いがより丁寧になったことに驚きます。

今年度最後の授業参観は、まん延防止等重点措置期間のため、残念ながらリモート参観となってしまいましたが、学級ごとの学習発表会（3年生以上は総合的な学習の発表会）でした。事前の接続テスト、当日の接続等、保護者の方には大変お世話になりました。

子どもたちはこの発表を出口に、1年間調べてきたこと考えたことを分かりやすく伝えようと何日も前からプレゼン作りや原稿読みの練習をしていました。当日も堂々とした姿でした。まさしく「九十九里進んだ」という感覚だったと思います。

しかしまだ「半ば」なのです。「戦国策」では「これ末路の難を云う」と続きます。あと少し残った道に何が待ち構えているか分からない。最後の最後まで気を抜かず進み続けることが大切だという言葉です。

令和3年度残り約1か月、大事な「残り半分」と思って過ごしたいと思います。

今年度の卒業式はコロナ感染予防対応として、4～6年生と卒業生保護者等2名まで、来賓3名（PTA会長、学校運営協議会会長、教育委員会）とさせていただきます。6年間支えてくださった地域の方々をお招きし、感謝の気持ちを伝えることが筋かと思いますが、ご容赦ください。

